

区分	No.	指標	基準			◎伊方発電所				
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー	12月9日		
情報共有・通報	1	情報共有のための情報フロー	前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している	全体を網羅した情報フローを作成している	情報フローを作成しているものの、全体が網羅されていない又は情報フローを作成していない	A	A	A	前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している ○訓練計画時点で、情報フローが作成されている ○前回訓練での課題を情報フローに反映している	
	2	2-1 事故・プラントの状況	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a：必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b：特段の支障なく情報共有が行われている c：情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a a →A：必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている a a b又はa b b又はb b b →B：特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 →C：情報共有に支障があり、改善の余地がある	必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○プラント状況等について積極的に情報共有され、戦略の全体像や対策の進捗については情報が限定的なものもあったが、基本的に必要な情報が前記に共有されていた。 ▲火災や傷病者情報など一部情報が連携が遅かった。 【事故・プラントの状況】 <アンケート結果>⑤13%、④31%、③44%、②13%、①0% ・COP1戦略共有シート、炉心冷却の炉心注水において、特重施設からの炉心注水（電源：特重電源）と非常用ガスタービン発電機（しゃ断器故障による発電不可）による電源回復を前提とした充てんポンプBによる炉心注水の優先順位を、電源確保の確実性から柔軟に優先順位を入れ替えを行っていたのは適切であった。 【進展予測と事故収束対応戦略】 <アンケート結果>⑤6%、④50%、③44%、②0%、①0% ・事象進展予測については、前提条件を明確すべき。 【戦略の進捗状況】 <アンケート結果>⑤0%、④50%、③44%、②6%、①0% ・3号機がSBOになる中、今後の電源戦略（確保戦略）の説明に時間を要した。SBOにおける対応は問われる前に説明すべき。 ・対応の完了時刻やEAL判断に自動で到達した際に、ERCからの問合せ後の発話が散見された。また、火災やSFP評価など発生等から大分時間が経過してから発話があった。いずれもタイムリーな発話が望まれる。	B	a	A	a	A	
		2-2 進展予測と事故収束対応戦略								
		2-3 戦略の進捗状況								
	3	情報共有のためのツール等の活用	3-1 プラント情報表示システムの使用（ERSS又はSPDS等を使用した訓練の実施）	プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	特段の支障なく情報共有が行われている <アンケート結果>⑤13%、④31%、③56%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・資料、ERSSも上手く活用されていた
			3-2 リエゾンの活動	情報共有に係る即応センターの補助ができていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	特段の支障なく情報共有が行われている <アンケート結果>⑤6%、④50%、③44%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・リエゾンの方による情報提供がきわめて良好。
			3-3 COPの活用	COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	特段の支障なく情報共有が行われている <アンケート結果>⑤6%、④41%、③53%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・途中からCOPしか届かなくなり、COP-2、4が無いのが不便だった。
			3-4 ERC備付け資料の活用	情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた <アンケート結果>⑤12%、④53%、③35%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・資料、ERSSも上手く活用されていた ・ERC備付け資料（PDF）ページ番号と右下のページ番号が一致しないので、さがしにくい。
	4	確実な通報・連絡の実施 ①通報文の正確性 ②EAL判断根拠の説明 ③10条確認会議等の対応 ④第25条報告	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	A	4つ該当 ○通報文の正確性 ○10条：誤記・記載漏れなし（第6報） ○15条：誤記・記載漏れなし（第8報） 【参考】その他訂正報 ▲AL発生連絡 事象発生後のプラント状態訂正（第4報） ○EAL判断根拠の説明 ○EAL判断フローを用いて説明した ○10条確認会議等の対応 ○10条確認：6分（判断14:30、確認14:36） ○15条認定：6分（判断15:00、認定15:06） ○判断根拠、進展予測、対応戦略を簡潔に説明した ○第25条報告 ○間隔 特定事象判断後26分、41分間隔（最大） 【参考】報告内容 ○発生事象と対応の概要 3報 ○プラント状況、放出見通し/状況、モニタリング情報等 3報 14:56（第7報） 対応の概要、プラント状況、MP 15:37（第11報） 対応の概要、プラント状況、MP 15:51（第12報） 対応の概要、プラント状況、MP ▲第25条報告の発出タイミングの考え方として2時間以内を目途とし、以後2時間以内に継続して発出するとしているが、他事業者と比較して突出して長い間隔であり、適切な間隔については検討の余地があるのではないかと思われる。	
	5	前回までの訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる	訓練実施計画等が、一部前回までの訓練の課題について検証できない	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できない	A	A	A	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる ○訓練計画段階で策定している	
	6	シナリオの多様化・難度	難度が高く多様なシナリオに取り組み難くしていた	適度なシナリオであり、シナリオの多様化に努めていた	平易なシナリオであった	A	A	A	難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた ○発災を想定する号機（複数号機又は全号機） ○全号機（1/1基）でAL以上 ※冷却器を除外 ○適合炉のうち発災時に運転中の原子炉：1基（1/1基） ○能力向上を促せるような実効性のある内容か ・L O C A発生時における特重施設からの炉心注水判断 ・モード3 整定以降の冷却後に発生したL O C Aに対するEAL判断 ○EAL（複数の異なるEAL区分）※地震、津波等は評価外 3号機（適合） AL:4, SE:2, GE:2 ○場面設定など（5つ以上付与） ・時間 : - ○場所 : 火災による7ヶ月間の通行制限 ・気象 : - ○体制 : 訓練途中で応急救護隊の放射線管理員が離脱 ○資機材 : 非常用高圧母線短絡、非常用ディーゼル発電機及び空冷式非常用発電装置故障、非常用高圧母線しゃ断器及び消火作業時ホース損傷 ・計器故障 : (炉心出口温度計故障) ○人為的ミス : 人為的ミスで非常用ガスタービン発電機起動不能 ○OFC対応 : OFCへ要員派遣、資料作成 ・判断分岐 : - ○その他 : 汚染傷病者、予備変圧器火災 【シナリオ概要】 3号機通常運転中において、地震（震度6弱）が発生、変圧器トラブルの波及を受け、原子炉トリップに至る。その後、予備変圧器および非常用ディーゼル発電機が相次ぎ故障し、SBOとなり、非常用ガスタービン発電機および空冷式非常用発電装置による電源復旧対応をすすめるが、故障等により給電できず、特重施設からの給電もしゃ断器の故障により直ちに受電ができず、電源復旧が難航。電源復旧ができない状況で1次冷却材ポンプのシール部から、1次冷却材の漏えい（L O C A）が発生する。	

区分	No.	指標	基準			◎伊方発電所 12月9日		
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー	
原子力事業者防災訓練の改善への取組	7	現場実動訓練の実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）かつ能力向上を促せるような工夫を凝らした訓練を実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）又は緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づかない現場実動訓練を実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れなし）又は緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づかない現場実動訓練を実施	A	A	A
	8	広報活動 ①ERC広報班と連動したプレス対応 ②記者等の社外プレーヤーの参加 ③他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤーの参加 ④模擬記者会見の実施 ⑤情報発信ツールを使った外部への情報発信	5つ該当	4つ該当	3つ以下	A	A	A
	9	後方支援活動 ①原子力事業者間の支援活動 ②原子力事業所災害対策支援拠点との連動 ③原子力緊急事態支援組織との連動	実動が3つ	実動が2～1	実動なし	A	A	A
	10	訓練への視察など ①他原子力事業者への視察 ②自社訓練の視察受入れ ③ピアレビュー等の受入れ ④他原子力事業者の現場実動訓練への視察	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	A
	11	訓練結果の自己評価・分析 ①問題点から課題の抽出 ②原因分析 ③原因分析結果を踏まえた対策	①～③が実施されている	①及び②まで実施されている	①のみ実施されている	A	A	A
備考	[P]	ERCプラント班への備え付け資料に係る説明実績						対象外
	[D]	10条通報に要した時間						○最大11分 ○第6報 3分、○第8報 4分、○第9報 11分
	[P]	中期計画の見直し						本社・発電所：2022年9月見直し
	[P]	シナリオ非提示型訓練の実施状況						全てのプレーヤーに対してシナリオ非提示
	[P] [D]	緊急時対応要員の訓練参加率（事業所）						訓練参加率：101% ・訓練参加者：111名、計画人数：110名
	[P] [D]	緊急時対応要員の訓練参加率（即応センター）						訓練参加率：91% ・松山訓練参加率 98%（訓練参加者：59名、計画人数：60名） ・高松訓練参加率 83%（訓練参加者：29名、計画人数：35名）
	[D]	訓練統制						パラメータ設定の誤りや訓練コントローラの不適切な介入（条件付与）等の訓練コントローラの不備により、参加者において混乱が生じるなど、訓練統制上のトラブルが起きていない。
		他事業者の改善に向けた取り組みへの協力						西国電力として、他事業者の改善に向けた取り組みへの協力 ○他社訓練の即応センターや緊急時対策所に派遣 2022年10月25日 九州電力川内発電所 即応センター 2022年11月4、5日 関西電力美浜発電所 即応センター 2022年11月15日 中国電力島根発電所 即応センター、緊急時対策所 2023年1月20日 関西電力大飯発電所 即応センター、緊急時対策所、 2023年1月27日 北海道電力泊発電所 現場実動訓練 2023年2月10日 中部電力浜岡発電所 即応センター、緊急時対策所 2023年3月3日 関西電力美浜発電所 即応センター、緊急時対策所、現場実動訓練
	評価指標だけで表せない取組等を記述する。						オンサイト医療体制の実効性を検証するため、本年度の総合防災訓練において、オンサイト医療に係る初動対応訓練（実連絡）を実施。【2022/12/9】緊急時対応能力の向上に係る試行として、II型訓練において検査官によるマルファンクションを付与する訓練を実施。	
参考	訓練報告書届出日	届出日	訓練後経過日数				5月12日 154日	

区分	No.	指標	基準			◎柏崎刈羽原子力発電所 2月3日			
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー		
情報共有・通報	1	情報共有のための情報フロー	前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している	全体を網羅した情報フローを作成している	情報フローを作成しているものの、全体が網羅されていない又は情報フローを作成していない	A	A	A	前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している ○訓練計画時点で、情報フローが作成されている ○前回訓練での課題を情報フローに反映している
	2	2-1 事故・プラントの状況	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a a → A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a b又はa b b又はb b b → B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 → C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a a → A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている	a	a	A	必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○発話者は非常に落ち着いており、発話内容が把握しやすかった 【事故・プラントの状況】 <アンケート結果>⑤5%、④58%、③37%、②0%、①0% ・LOCA発生時、即応センターは緊急所での発話より先にERCに情報を伝えていた。事象によって発電所の判断を待つ必要があるものとならないものの整理ができていた。(事業者の正式判断との誤解されない発話の仕方には引き続き留意が必要。)
		2-2 進展予測と事故収束対応戦略	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a b又はa b b又はb b b → B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 → C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a b又はa b b又はb b b → B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 → C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a b又はa b b又はb b b → B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 → C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	a	A	【進展予測と事故収束対応戦略】 <アンケート結果>⑤11%、④37%、③47%、②5%、①0% ・戦略を示すことが少し遅かった 【戦略の進捗状況】 <アンケート結果>⑤5%、④32%、③53%、②11%、①0% ・対応戦略を厚めに説明を求めたべきであった
		2-3 戦略の進捗状況	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a a → A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a b又はa b b又はb b b → B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 → C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 a a b又はa b b又はb b b → B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 → C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	a	a	A	【戦略の進捗状況】 <アンケート結果>⑤5%、④32%、③53%、②11%、①0% ・対応戦略を厚めに説明を求めたべきであった
	3	3-1 プラント情報表示システムの使用 (ERSS又はSPDS等を使用した訓練の実施)	プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した <アンケート結果>⑤22%、④50%、③28%、②0%、①0%
		3-2 情報共有のためのツールの活用	情報共有に依る即応センターの補助ができていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	情報共有に依る即応センターの補助ができていた <アンケート結果>⑤11%、④32%、③53%、②5%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・リエゾン資料については、フロント側配付と同時に資料配付担当にも配布すること
		3-3 COPの活用	COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した <アンケート結果>⑤5%、④26%、③58%、②11%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・COPについて、電源の部分が明確でない
		3-4 ERC備付け資料の活用	情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた <アンケート結果>⑤5%、④42%、③47%、②5%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・備え付け資料の電線は一つのファイルの方が検索しやすいため、一つに整理すべき。
	4	確実な通報・連絡の実施 ①通報文の正確性 ②EAL判断根拠の説明 ③10条確認会議等の対応 ④第25条報告	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	A	4つ該当 ○通報文の正確性 ○10条: 誤記・記載漏れなし(第5報) ○15条: 誤記・記載漏れなし(第13報) 【参考】その他訂正報 ▲AL発生連絡 事象発生時刻の誤記(第12報)の訂正報として第18報 ○EAL判断根拠の説明 ○「EAL判断シート」を用いて説明した ○10条確認会議等の対応 ○10条確認: 7分(判断14:01, 確認14:08) ○15条確認: 6分(判断14:56, 認定15:02) ○判断根拠、進展予測、対応戦略を簡潔に説明した ○第25条報告 ○間隔 特定事象判断後8分, 56分間隔(最大) 【参考】報告内容 ○発生事象と対応の概要 8報 ○プラント状況、放出見通し/状況、モニタリング情報等 8報 14:09(第6報) 対応の概要、プラント状況 14:19(第7報) 対応の概要、プラント状況、MP 15:15(第15報) 対応の概要、プラント状況 15:33(第17報) 対応の概要、プラント状況、MP 15:43(第19報) 対応の概要、プラント状況 16:06(第22報) 対応の概要、プラント状況 16:10(第23報) 対応の概要、プラント状況、MP 16:21(第24報) 対応の概要、プラント状況
	5	前回までの訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる	訓練実施計画等が、一部前回までの訓練の課題について検証できない	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できない	A	A	A	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる ○訓練計画段階で策定している
	6	シナリオの多様化・難度	難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた	適度なシナリオであり、シナリオの多様化に努めていた	平易なシナリオであった	A	A	A	難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた ○発災を想定する号機(複数号機又は全号機) ○複号機(3/7基)でAL以上(1号機、6号機および7号機) ○適合炉のうち発災時に運転中の原子炉: 1基(1/1基) ○能力向上を促せるような実効性のある内容か 森林火災、地震の外部事象に加え、設備機器の機能喪失等が重畳し、複数の場面を設定したシナリオ ○EAL(複数の異なるEAL区分)※地震、津波等は評価外 1号機、6号機(未適合) AL: 1, SE: 0, GE: 0 7号機 (適合) AL: 5, SE: 4, GE: 3 ○場面設定など(5つ以上付与) ・時間 : - ○場所 : 敷地内森林火災 ・気象 : - ○体制 : 段階的な要員参集 ○資機材 : MP4の火災による焼失、通報用FAX使用不能、MUNC系の機能喪失に関する代替措置 ・計器故障 : - ○人為的ミス : 7号機水位不明領域到達(当直側からの連絡なし) ○OFC対応 : OFCからの要請 ○判断分岐 : 消火栓-消防車による放水(外部電源喪失) ○その他 : 汚染病者 【シナリオ概要】 1~6号機は冷温停止中、7号機は定格熱出力運転中において、震度5弱の地震により、敷地境界近傍の国道でタンクローリーが転倒し出火、構内の森林へ延焼。要員が参集し活動中に震度6強の地震が発生。7号機は原子炉スクラム、SBO、全残留熱除去機能喪失。森林火災の影響を踏まえた災害対応を迫られる中、さらに震度6弱の余震発生、非常用ディーゼル発電機が停止し、原子炉が無注水状態となり炉心損傷に至る。6号機ではSBOに加え、1号機及び6号機でSFP水位が低下し、有効燃料頂部(TAF)を割り込む恐れがある事象が発生。SFP水位低下と線量上昇の予測、要員の線量管理が必要となる。また、2号機では汚染病者が発生。

区分	No.	指標	基準			◎柏崎刈羽原子力発電所 2月3日		
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー	
原子力事業者防災訓練の改善への取組	7 【D】	現場実動訓練の実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）かつ能力向上を促せるような工夫を凝らした訓練を実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れなし）又は緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づかない現場実動訓練を実施	A	A	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）かつ能力向上を促せるような工夫を凝らした訓練を実施 ○現場実動訓練を実施 ・実施状況：要素訓練で実施 ・チーム：電源車による荒浜側緊急用M/C受電対応 7号機代替注水用電源確保のための電源車による緊急用M/C受電対応を可搬型照明使用による暗闇対応訓練、重大事故想定下の放射線防護装備着用にて実施 ・ malfunction付与：あり（電源車燃料タンク損傷・接続ケーブル不良） ・能力向上を促せるような工夫： 電源車燃料タンク損傷：現場は軽油漏洩に対し吸着マットで拡散防止処置を実施、予備電源車使用を速やかに決定。 接続ケーブル不良：現場は電源車-緊急用M/C間接続ケーブルの絶縁不良を本部へ報告、絶縁抵抗測定で不良ケーブルを特定、悪天候（雪）下ケーブル端部が濡れぬようシート養生の上速やかに予備ケーブルへ交換。 作業完了時間の共有：状況に合わせてトランシーバーや拡声器にて本部から現場へ戦略やプラント状況の共有、現場から本部へ作業進捗状況や作業完了予定時刻が報告された。 ・連携状況：現場、緊急時対策所と連携 ・他事業者評価：東北電力、九州電力、電源開発
	8 【D】	広報活動 ①ERC広報班と連動したプレス対応 ②記者等の社外プレーヤーの参加 ③他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤーの参加 ④模擬記者会見の実施 ⑤情報発信ツールを使った外部への情報発信	5つ該当	4つ該当	3つ以下	A	A	5つ該当 ○ERC広報班と連動したプレス対応 ・あり ○記者等の社外プレーヤーの参加 ・あり（広報コンサルティング） ○他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤーの参加 ・あり（中部電力） ○模擬記者会見の実施 ・あり ○情報発信ツールを使った外部への情報発信 ・模擬ホームページ、模擬SNSによる情報発信
	9 【D】	後方支援活動 ①原子力事業者間の支援活動 ②原子力事業所災害対策支援拠点との連動 ③原子力緊急事態支援組織との連動	実動が3つ	実動が2～1	実動なし	A	A	実動が3つ ○原子力事業者間の支援活動 ・東北電力 ○原子力事業所災害対策支援拠点との連動 後方支援拠点（出雲崎拠点）立ち上げ訓練（要素訓練として実施） ○原子力緊急事態支援組織との連動 ・連絡訓練を実施。
	10 【A】	訓練への視察など ①他原子力事業者への視察 ②自社訓練の視察受入れ ③ピアレビュー等の受入れ ④他原子力事業者の現場実動訓練への視察	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	4つ該当 ○他原子力事業者への視察（統原防視察、DVD視察、現場視察、ERC視察） ・（統原防視察）即応センター：15訓練 ・（DVD視察）即応センター：4訓練、緊急時対策所：3訓練 ・（現場視察）即応センター：3訓練、緊急時対策所：3訓練 ・（ERC視察）即応センター：4訓練 ○自社訓練の視察受入れ（現地又はDVD） ・あり ○ピアレビュー等の受入れ ・東北電力・九州電力・電源開発（即応センター、緊急時対策所） ○他原子力事業者の現場実動訓練への視察 ・伊方原子力発電所（2022年12月9日） ・女川原子力発電所（2023年3月7日）
	11 【C】 【A】	訓練結果の自己評価・分析 ①問題点から課題の抽出 ②原因分析 ③原因分析結果を踏まえた対策	①～③が実施されている	①及び②まで実施されている	①のみ実施されている	A	A	①～③が実施されている ○12件の問題点から4件の課題が抽出されている ○4件の課題に対して原因分析がされている ○4件の課題に対して原因分析を踏まえた対策が検討されている 【参考：前回訓練から改善されていない課題】 なし
備考	【P】	ERCプラント班への備え付け資料に係る説明実績						対象外
	【D】	10条通報に要した時間						○最大11分 ○第5報 4分、○第8報 5分、○第10報 9分 ○第13報 11分、○第14報 11分、○第21報 8分
	【P】	中期計画の見直し						本 社：2021年 4月26日改訂 発電所：2021年 4月21日改訂
	【P】	シナリオ非提示型訓練の実施状況						全てのプレーヤーに対してシナリオ非提示
	【P】 【D】	緊急時対応委員の訓練参加率（事業所）						訓練参加率：104.5% ・訓練参加者：162名、計画人数：155名
	【P】 【D】	緊急時対応委員の訓練参加率（即応センター）						訓練参加率：100% ・訓練参加者：193名、計画人数：193名
	【D】	訓練統制						パラメータ設定の誤りや訓練コントローラの不適切な介入（条件付与）等の訓練コントローラの不備により、参加者において混乱が生じるなど、訓練統制上のトラブルが起きていない。
		他事業者の改善に向けた取り組みへの協力						東京電力HDとして、他事業者の改善に向けた取り組みへの協力 ・2023年2月6日 日本原子力発電株式会社に対し規制庁役模擬を実施 ・2023年3月22日 電事連 防災検討委員会/ATENA防災検討WGで訓練シナリオにおけるMAAP水位データの炉圧逆補正について」を周知
		評価指標だけで表せない取組等を記述する。						
	参考	訓練報告書届出日	届出日	訓練後経過日数				4月26日

区分	No.	指標	基準			◎美浜発電所		
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー	3月3日
情報共有・通報	1	情報共有のための情報フロー	前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している	全体を網羅した情報フローを作成している	情報フローを作成しているものの、全体が網羅されていない又は情報フローを作成していない	A	A	A 前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している ○訓練計画時点で、情報フローが作成されている ○前回訓練での課題を情報フローに反映している
	2	2-1 事故・プラントの状況	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	a	a	a 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○プラント状況等の必要な情報共有が、発電所の情報とタイムラグがなく、即時性をもって前広になされた。また、適宜、今後のEALの進展、戦略の全体像等の情報をまとめて説明していた。 【事故・プラントの状況】 <アンケート結果>⑤6%、④47%、③47%、②0%、①0% ・事故初期の混みあった時間帯を含めて、総じてプラント状況について、「止める」「冷やす」を分けて適切に発話できていた。
		2-2 進展予測と事故収束対応戦略	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A 【進展予測と事故収束対応戦略】 <アンケート結果>⑤0%、④71%、③29%、②%、①0% ・事象進展予測、今後発生するであろうEALの見直し、及び対策についても、調しているものが失敗した場合の対策も含めて適切に情報提供できており、非常に安定感があった。
		2-3 戦略の進捗状況	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	指標2については、2-1~2-3についてそれぞれ以下の基準により個別評価する。 a: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている b: 特段の支障なく情報共有が行われている c: 情報共有に支障があり、改善の余地がある その上で、以下により全体としての評価を決定する。 aaa —A: 必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている aab または abb または bbb —B: 特段の支障なく情報共有が行われている 上記以外 —C: 情報共有に支障があり、改善の余地がある	a	a	a 【戦略の進捗状況】 <アンケート結果>⑤0%、④65%、③35%、②0%、①0% ・プラント状況の整理、EALの今後の予告、今後の各種設備の復旧対策・見込み等について、適切に対応・発言されていた。
	3	3-1 プラント情報表示システムの使用（ERSS又はSPDS等を使用した訓練の実施）	プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した <アンケート結果>⑤6%、④53%、③41%、②0%、①0%
		3-2 リエゾンの活動	情報共有に係る即応センターの補助ができていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A 情報共有に係る即応センターの補助ができていた <アンケート結果>⑤18%、④41%、③41%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・リエゾンからの説明フォローがとても良く、クロノロ作成が助かった
		3-3 COPの活用	COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した <アンケート結果>⑤6%、④29%、③65%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・最初、COPの共有が遅かったように思う
		3-4 ERC備付け資料の活用	情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A 情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた <アンケート結果>⑤6%、④59%、③35%、②0%、①0%
	4	確実な通報・連絡の実施 ①通報文の正確性 ②EAL判断根拠の説明 ③10条確認会議等の対応 ④第25条報告	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	A 4つ該当 ○通報文の正確性 ○10条: 誤記・記載漏れなし(第3報) ○15条: 誤記・記載漏れなし(第6報) 【参考】その他訂正 ○なし ○EAL判断根拠の説明 ○EAL判断フローを用いて説明した ○10条確認会議等の対応 ○10条確認: 6分(判断14:06, 確認14:12) ○15条確認: 5分(判断14:50, 認定14:55) ○判断根拠、進展予測、対応戦略を簡潔に説明した ○第25条報告 ○間隔 特定事象判断後44分、53分間隔(最大) 【参考】報告内容 ○発生事象と対応の概要 2報 ○プラント状況、放出見直し/状況、モニタ・気象情報等 2報 14:50(第5報) 対応の概要、プラント状況、MP 15:43(第9報) 対応の概要、プラント状況、MP
	5	前回までの訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる	訓練実施計画等が、一部前回までの訓練の課題について検証できない	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できない	A	A	A 訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる ○訓練計画段階で策定している
	6	シナリオの多様化・難度	難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた	適度なシナリオであり、シナリオの多様化に努めていた	平易なシナリオであった	A	A	A 難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた ○発生を想定する号機(機番号機又は全号機) ○全号機(1/1基:3号機)でAL以上 ※冷却指示除く ○適合炉のうち発生時に運転中の原子炉: 全号機(1/1基:3号機) ○能力向上を促せるような実効性のある内容か 3号機で電源の多重故障が発生、電源車のみ使用可能な状況でタービン動補給水ポンプが異常の発火、仮設中圧ポンプの準備作業を早期に完了させておくことで2次系の冷却により炉心損傷を回避できる可能性を含むシナリオ。 ○EAL(複数の異なるEAL区分)※地震・津波等は評価外 3号機(適合) AL:5, SE:5, GE:4 ○場面設定など(5つ以上付与) ○時間制限に間に合わない設定の付与 ・場所: - ・気象: - ・体制: 全交流電源喪失対応に必要な緊急安全対策要員以外の要員が必要となるかもしれない場面を設定していたが、実際には要員争奪をなかった。 ○資機材: 3号機で電源車の車両移動不可及びバッテリー端子はずれを付与。・クレーン転倒によるアクセスルート1の制限・PHSアンテナ破損で不適切な設定、本部との連携が困難な状況で代替通信手段の検討が必要となる。 ○計器故障: 高レンジエリアモニタ、No.5モニタポストの故障による指示値不良 ○人為的ミス: 中央制御室から発電所対策本部への特重代替炉注ポンプトリップの報告失念 ○OFC対応: - ○判断根拠: 3号機にて、電源の多重故障が起き、復旧の優先順位を検討させる状況と付与 ○その他: 複数の汚染漏洩の発生、事故収束とは関係のない間合せ等の外乱の付与 【シナリオ概要】 地震(震度6弱)により3号機が0G故障等によりSBO、全給水喪失で10条事象、蒸気発生器広域水位10%未満到達、特重代替炉注ポンプによるF&B開始で15条事象となる。ポンプ不調発火や充電/高圧注入ポンプおよび余熱除去ポンプ起動不可となる。その後仮設中圧ポンプによるSGへの補給水が開始されるも再び地震(震度6弱)でLOCA等が発生し、炉心損傷に至る。

区分	No.	指標	基準			◎女川原子力発電所 3月7日			
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー		
情報共有・通報	1	情報共有のための情報フロー	前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している	全体を網羅した情報フローを作成している	情報フローを作成しているものの、全体が網羅されていない又は情報フローを作成していない	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○前回訓練結果に対する分析・評価が行われ、全体を網羅した情報フローへ反映している ○訓練計画時点で、情報フローが作成されている ○前回訓練での課題を情報フローに反映している
	2	2-1 事故・プラントの状況	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	a	a	a	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○プラント状況等について積極的に情報共有され、戦略の全体像や対策の進捗については情報が限定的なものもあった 【事故・プラントの状況】 <アンケート結果>⑤5.0%、④25%、③63%、②12%、①0% ・スピーカは落ち着いており発話内容が理解しやすかった 【進展予測と事故収束対応戦略】 <アンケート結果>⑤6%、④44%、③50%、②0%、①0% ・優先度が低くても、取り得る対策の選択肢について、タイミングを見て、より広く説明したほうがよかったと思います 【戦略の進捗状況】 <アンケート結果>⑤0%、④50%、③44%、②6%、①0% ・事象の進展が進んだためか、情報提供の途中で変化などがあり、十分に情報が提供されたとは言いがたい 戦略がよく見えなかった。
		2-2 進展予測と事故収束対応戦略	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	a	a	a	
		2-3 戦略の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報に不足や遅れがなく、積極的に情報共有が行われている ○特段の支障なく情報共有が行われている ○情報共有に支障があり、改善の余地がある 	b	b	a	
	3	3-1 プラント情報表示システムの使用（ERSS又はSPDS等を使用した訓練の実施）	プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○プラント情報表示システムの使用に習熟し、情報共有に活用した <アンケート結果>⑤7%、④40%、③47%、②7%、①0%
		3-2 エンジンの活動	情報共有に係る即応センターの補助ができていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有に係る即応センターの補助ができていた <アンケート結果>⑤13%、④40%、③33%、②13%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・エンジンへの質問に適切に対応いただいた
		3-3 COPの活用	COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ○COPがERCプラント班に共有され、情報共有に資した <アンケート結果>⑤0%、④44%、③38%、②19%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・COPの更新が遅くて、説明に追いついていない ・書画が焦点が合わず見えにくい
		3-4 ERC備付け資料の活用	情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた	特段の支障なく情報共有が行われている	情報共有に支障があり、改善の余地がある	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報共有において必要な際、備付け資料が活用されていた <アンケート結果>⑤8%、④85%、③8%、②0%、①0% 【良好事例、不足する点】 ・備付け資料の説明が煩雑な点があつたが、書画の映像が粗くよく見えなかった
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○確実な通報・連絡の実施 ①通報文の正確性 ②EAL判断根拠の説明 ③10条確認会議等の対応 ④第25条報告 	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○通報文の正確性 ○10条:誤記・記載漏れなし(第3報) ○15条:誤記・記載漏れなし(第7報) 【参考】その他訂正報 ○なし ○EAL判断根拠の説明 ○EALフロー図を用いて説明した ○10条確認会議等の対応 ○10条確認:5分(判断10:36、確認10:41) ○15条確認:6分(判断11:13、認定11:19) ○判断根拠、進展予測、対応戦略を簡潔に説明した ▲第25条報告 ▲間隔 特定事象判断後85分、14分間隔 通報FAXが、11:10以降送信されない事象発生。着信確認においてERC側から届いていない旨を伝えたにもかかわらずその後も手順にある代替手段がとられなかった。 (計画上25条報告2回、10条通報後30分目処に発出予定であった) 【参考】報告内容 ○発生事象と対応の概要 2報 ○プラント状況、放出見通し/状況、モニタリング情報等 2報 12:01(第5報)対応の概要、プラント状況、MP 12:15(第10報)対応の概要、プラント状況、MP ・FAX送信が30分以上来ないなどトラブルが発生した。こちらからエンジンを通して状況を伝えても、尚同じ手法ですつと送り続けていた。連携あるいは代替の手法への切り替えに問題がある。
	5	前回までの訓練の訓練課題を踏まえた訓練実施計画等の策定	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる	訓練実施計画等が、一部前回までの訓練の課題について検証できない	訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できない	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練実施計画等が、前回までの訓練の課題について検証できる ○訓練計画段階で策定している
6	シナリオの多様化・難度	難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた	適度なシナリオであり、シナリオの多様化に努めていた	平易なシナリオであった	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○難度が高く多様なシナリオに取り組んでいた ○発災を想定する号機(複数号機又は全号機) ○全号機(2/2基)でAL以上※冷却指示を除く ○適合炉のうち発災時に運転中の原子炉:1基(1/1基) ○能力向上を促せるような実効性のある内容か 予備変圧器エリアにおける外部火災の発生を想定し、火災延焼により可搬型変圧器を使用した外部電源の早期復旧が不可能となるリスクへの対応として、大津波警報発令下においても、人身安全を確保しつつ初期消火活動の指揮対応ができるか検証できる能力向上を促せる実効性のあるシナリオ。 ○EAL(複数の異なるEAL区分)※地震・津波等は評価外 A L:5回、S E:3回、G E:1回 ○場面設定など(5つ以上付与) ・時間 : - ・場所 : - ○気象 : 大津波警報発令時における事故収束対応 ○体制 : 緊急時対策所への要員移動中における限られた要員での初期対応 ・資機材 : - ○計器故障 : ERS S、SPDS表示端末故障時のパラメータおよび設備の状態監視 ・人為的ミス : - ○OFC対応 : オフサイトセンターへの要員派遣 ○判断分岐 : シナリオ検証ポイントの設定 ○その他 : 傷病者発生、火災延焼による電源設備影響リスク 【シナリオ概要】 2号機・定格熱出力一定運転中の女川原子力発電所2号機において、自然災害(地震)を起因とした原子炉自動停止、残留熱除去機能の喪失、原子炉注水機能の喪失等により、原災法第10条事象および同法第15条事象に至る原子力災害を想定。 3号機・定期事業者検査中の女川原子力発電所3号機において、自然災害(地震)を起因とした使用済燃料プールの冷却材喪失により原災法第10条事象に至る原子力災害を想定。 	

区分	No.	指標	基準			◎女川原子力発電所 3月7日		
			A	B	C	自己評価	ピアレビュー	
原子力事業者防災訓練の改善への取組	7	現場実動訓練の実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）かつ能力向上を促せるような工夫を凝らした訓練を実施	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れあり）	緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づく現場実動訓練を1回以上実施（他原子力事業者評価者を受入れなし）又は緊急時対策所と連携した事故シナリオに基づかない現場実動訓練を実施	A	A	A
	8	広報活動 ① E R C 広報班と連動したプレス対応 ② 記者等の社外プレーヤーの参加 ③ 他原子力事業者広報担当等の社外プレーヤーの参加 ④ 模擬記者会見の実施 ⑤ 情報発信ツールを使った外部への情報発信	5つ該当	4つ該当	3つ以下	A	A	A
	9	後方支援活動 ① 原子力事業者間の支援活動 ② 原子力事業所災害対策支援拠点との連動 ③ 原子力緊急事態支援組織との連動	実動が3つ	実動が2～1	実動なし	A	A	A
	10	訓練への視察など ① 他原子力事業者への視察 ② 自社訓練の視察受入れ ③ ビアレビュー等の受入れ ④ 他原子力事業者の現場実動訓練への視察	4つ該当	3つ該当	2つ以下	A	A	A
	11	訓練結果の自己評価・分析 ① 問題点から課題の抽出 ② 原因分析 ③ 原因分析結果を踏まえた対策	①～③が実施されている	①及び②まで実施されている	①のみ実施	A	A	A
	【D】	ERCプラント班への備え付け資料に係る説明実績						対象外
備考	【D】	10条通報に要した時間						○最大11分 ○第3報 11分、○第7報 8分 ○第9報 5分 ▼第3報については規制庁に着信し、18分で規制庁への着信確認が行われていたものの、以降の通報についてはトラブルにより未達。（未達であることが確認されているものの、代替手段等の対策が実施されておらず、最終的な着信確認も実施されていない。）
	【P】	中期計画の見直し						本店：2022年8月12日改訂 発電所：2023年2月27日改訂
	【P】	シナリオ非提示型訓練の実施状況						シナリオを予めできる内容については非提示であるものの訓練上想定する手順および設備については開示している。
	【P】 【D】	緊急時対応委員の訓練参加率（事業所）						訓練参加率：102% ・訓練参加者：107名、計画人数：105名
	【P】 【D】	緊急時対応委員の訓練参加率（即応センター）						訓練参加率：96% ・訓練参加者：297名、計画人数：309名
	【D】	訓練統制						・訓練事務局からプレーヤーに対して訓練で使用する通信機器について事前説明が曖昧だった結果、通報文のFAXが未送達となった際に代替措置として統原防NWが使用されず、FAXの送達が遅れた。 ・試送時には燃料域水位計の挙動に問題はなかったが、試送後に燃料域水位計とは異なる部分を修正したタイミングでデータが変化し、燃料域水位計の値が誤植の状態でERSS（訓練モード）のデータとして伝送されていた。
		他事業者の改善に向けた取り組みへの協力						東北電力として、他事業者の改善に向けた取り組みへの協力 ○北海道電力 後方支援活動訓練実働訓練参加（2022年9月） ○関西電力 美浜発電所総合防災訓練 避難遅延時検査および評価者対応（2022年11月） ○東京電力HD 福島第一緊急時演習現場評価者対応（2022年10月） ○東京電力HD 柏崎刈羽発電所 事業者間ピアレビュー（2023年2月実施）
		評価指標だけで表せない取組等を記述する。						【発電所】 ・COP2の様式を見直し、常設設備についての使用可否欄を設けることで、視認性の向上に取り組んだ。（東通良好事例の展開） 【本店】 ・模擬記者会見ではHPのバーチャルプラントモデルを用いて、一般の方にもわかりやすい説明に務めた。 ・原子班では、各自治体や0FCへの要員派遣の指示及び派遣状況が逐一共有されていた。 ・緊急時対策室への参集及び入室の機器設置もスムーズであった。また、事務局長は参集後速やかに、各機能班の参集状況を確認し、書面装置上のパネルを使って参集状況を把握・共有することで、参集確認を確実、迅速に行っていた。（参集完了確認は事象発生後10分以内） ・送配電事業者である東北電力ネットワークを含め全社一体体制による訓練に取り組んでいる。
	参考	訓練報告書届出日	届出日	訓練後経過日数				未提出